不誠意に怒り爆發

九日早朝から 宮浦 三川 で座込み

十二月九日宮浦支部三十五昇部内（常一番）、三川支部十三却部内（一番方）はこの朝早ずして座りこみに入り、職場闘争の火の手をあげた。保安関係など四項目の会社サボを追及した宮浦支部三十五昇分会、機械化交渉から生まれた巡回制に対する人選の未解決に憤満を爆発させた三川支部十三却分会が、ともどもこの日座りこみに入つたのである。

宮浦 保安サボに怒る

宮浦支部三十五昇会（八十八名）では左四片坑木置場の改善、坑内便所の移転、体洗場設置、休憩所の改善の四項目を二、三カ月前から要求していたが、各項目とも実現させる確約をとつていた。

ところが黙つていれば会社は一向に手をつけない、薬を煙やした分会では三週間ばかり前、まず材料置場の件を追及したところ「改善します」と確約した。だが一向に解決する傾向がみられないのである。この坑木置場は坑木を荷いこまなければならないというところで、少くとも台車を入れたなら即時に坑木が置かれるのが坑木置場でなければならないのだが、会社は増設したからよい、労働条件は絶体に低下させませんといつているが、実際は労働条件が低下している実態であつた。また、資材不足はさせぬと確約しているにもかかわらず、八日には十尺坑木が不足、職制からは不足なら十二尺坑木を切つて使用せよという全く無茶なことまでいつてきている。この問題については、の日昼休みに現場で激しい討論を交した。坑内便所移転は詰所が移転したので当然移設するとこれも以前確約していたが、二カ月を経つた今日まで全然顧みられていない状態だつた体洗場も同じく、四カ月前に詰所が移転したときに解決が約束されている。分会では機会あるごとに要求していたがこれも梨のつぶてで何の応答もなかつた。

休憩所増設も終掘する部内から十数名が新らしく来ることがわかり分会では八月末ごろから数回要求していたものである。これも確約したまま一向に進めていない。

二番方も支援

分会では会社のサボに激しい怒りを高め、黙つてみているわけには行かぬと、八日の休憩時間に再び交渉、この結果体洗場が解決したが、残りは全然問題にならなかつた。保安優先をうたいながらも実際上のことと云ると会社は全然やらないということがはつきりしてきた。この日、午後四時から話合いをつづけたが一向進展せず、これ以上話合つても無駄だと代表者は引上げ、九日の繰込前にこれを分会に報告したのである。分会員は当然憤激し既得権の剝奪であり職場防衛のために全員で話合いをきこうと繰込場に座りこみ係長と交渉した。

だが一向にラチがあかないため代表者を選んで交渉にあたらせることとした。

一方、この問題を重視した他分会（常一番）でも一職場の問題は全職場の問題だと座りこみを支援、この朝の繰こみを中止して事態を見守つた。

交渉は係長と代表者の間で行われたが座こみに対しては賃金カットする挙に出てきた。

執行部では二番方の出勤時になつたため会社に再考慮を促したが、係長は首を縦にふらない。これでは話にならぬと会社に事態収拾の申入れを行つたが応じなかつた。

ところが二番方は座込みの報告をうけるや、これは全職場の問題だとこれも座込みに入つた。

交渉は執行部と会社側、分会代表者と係長の二つに分かれて続行されることとなつた。交渉中常一番は交渉にデモをかけ、二番方は三番方に出てきた委員と抗議団を編成デモをかけるなど交渉にハツパをかけ、最終的には三番方繰込み前に会社の案が出され、四項目にはほぼ解決の線が出され、一応白紙にもどして責任追求、賃金カットは両者で話合うこととなつた。

分会人選を拒否 三川

一方、三川支部ではさきの機械化交渉でO・G当番がOダツシユになり、六名で巡回を編成する協定が結ばれていた。この巡回員の人選を各職場で係長と話合つていたが、去る十一月十日に第一回の交渉をもち、人選をめぐり対立したこのとき三名が対立になつたが、ついに一名までに話は絞られた。十三御部会では一名をどうしても会社が認めない、結局、残り五名で暫定的に輪番制をとり巡回し、その間で一名を決定することにした。

会社が一名を認めない理由として(1)技術面 (2)責任感 (3)係長との連繋をあげ拒否してきた。分会では一応選出したものを簡単に変更はできぬ、会社の指摘する三点は理論的な理由はない、あつたとしてもそれは分会で指導、教育すると主張したが駄目で、ついに十一月二十七日に座込みさえやつている。

27日にも座込む

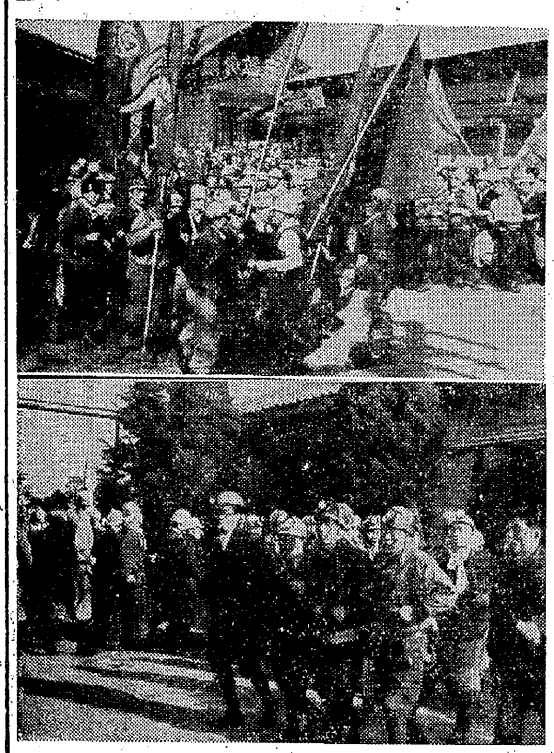
係長との話合いが全然進まないため代表者はこれを分会に報告したところ、巡回はやめようということに一致し、係員にこれを申入れている。なお、第一回の座込みは三番方繰込みの午後九時四十分から翌朝四時までつづいたが、話合いの結果、暫定措置として一応巡回はしないということであつた。

そのご、二回ほど交渉をもつたが係長のいい分は変らず、分会としてはあくまでも分会内で解決しようと迫つたが、係長は現場で解決できないと主張するありさまであつた。

十二月八日、この問題で職場常会をもち、あくまで闘うとの結論がでた。巡回は分会としてお断りする、故障がおきてもいままでは生産に協力するため応援していたがこれも拒否すると態度をあきらかにした。早速このことを電話で係長に申入れをした。翌九日一番方の繰込みのとき、係員がそれでは困ると文句をいい、ついに係長と話をしてくれということになり、代表を選んで交渉に入り、午前五時四十分の繰込みから座込みに突入したのであつた。

執行部からも加わつて、交渉はつづけられ、難航したが、ついにこの日午後十一時になり、現在の五人で一応巡回し一名も会社は認めるが、一カ月のあいだ一回だけ抜かすということに決つたこの間、分会では繰込場に待期して交渉を見守つていた。

このため組合ではこれを三番方に報告、三番方はこれを諒承して繰込んだ。



(上)35昇分会を先頭に力強くデモつた(宮浦)
(下)職場闘争で鉱長室前をデモる(三川)

大きな収獲

三川 永江美由紀

十一月にひらかれた九州母と女教師の会で、勤評反対の決議をするかどうかが約三時間あまり議論されたすえ、反対決議をいたしました。

その議論のなかで私が収獲したことがひとつあります。

勤評に賛成の先生がいて、その先生の発言にたいして「それでも教師ですか……。そんな先生に子供をあづけたら大変だ……先生をやめて下さい」と強い意見がでていました。

私の席の前後に四人づれの直方からきたお母さんが、勤評反対の決議にどんな態度をとればよいものかと「どうしましようね」「そうね」とつぶやいていました。

私はそのお母さんたちに「どちらからおいでですか」とはなしかけました。

一人のお母さんが「私たちは直方です。とても保守色がつよくて、なかなか大変なんです。私は婦人会長をしています、勤評には最初から反対でいろんな妨害をうけながらも、かくれたようにして署名をあつめ説得をしてきました。でもいまここで反対決議をすると私たちの地区ではあとの運動がやりにくくなると思うのです。あなたの地区のように単純ではないのですから……」というのです。

その〃単純〃という言葉がちようと気にさわりましたが、私はいいました。「私たちの地区でも努力したのですよ。ひとりひとりに理解してもらうためには、先生はもちろん、PTAのひとたち、お母さんたちと話合つたのです。いまここで、全九州の母親と女教師の会で勤評反対の決議をすることは勤評反対運動を勇気づける大きな力になると思います。どんな人でも真剣に話合えばかならずわかつてもらえますよ」と。

直方のお母さんたちは「ありがとうございました。私たちもきつと頑張りますよ……」と明るい笑顔でうなづきました。

いま、あの婦人会長さんたちも直方地区の勤評反対運動の大きな推進力として、がんばつていることと思います。

九州母と女教師の会で勤評反対決議をしたことをきることながら、直方のお母さんと話合いはげましあつたことを、私は大きな収獲だと思つています。

養老院を慰問

主婦会、大牟田・荒尾で

主婦会では十二月十日大牟田、荒尾の両養老院の慰問を行つた。

【写真は主婦会の養老院慰問】

養老院では楽しみのない老人たちをきょう一日は心ゆくまで慰めようと忙しい家事の暇をみて練習を励んだ舞踊を披露、なかには玄人はだしの見事な踊りに老人たちもさかんに拍手をおくり「炭鉱の人たちヤ上手のウ」と感心していた主婦会は毎年この養老院慰問は行事にくんで実施しており、とかく子供のことばいろんな面で取り上げられるが老人のこととなれば忘れられがちになる傾向があるため、老人と一緒になつて楽しい一日をすごした。

〃熱がありまじめだ〃

交流情宣へ現場の声 港務

四山支部を皮切りにおこなわれた交流情宣は、途中三鉱連臨時大会のため中断されたが、大会終了とさらに残りの各支部にくりひろげられている。

港務支部教宣部では十二月六日、交流情宣を終つた現場を巡回して交流情宣に対する組合員の率直な意見や要望を集約してまわつた。各現場で出された意見、要望、質問をまとめてみると……。

◈意見・要望

○ひじようにわかりやすか
○話がうまい
○熱があつてまじめか
○親しみがある
○支部の執行部もあんか話ばせろ
○こんどもちよいちよいもつてくれ
○何でもよう知つとらす
○期待しとつたが、そげんなかつた
○第二組合のことばもつとくわしく聞きたかつた
○仲良くせろということと、愚痴闘争との関係がわからん
○実際にはどげん活動するとよかかをもつとくわしく話してくれ
○一般的な情宣だつたから活動家に対する交流情宣もかんがえてくれ
○太か柱がいくつもならべず一段下がつたところばくわしく話してくれ
○同じ職場を違つた人でやらんようにしてくれ
○やる時間ばかんがえてくれ
○政党と組合の関係をもつとくわしくききたかつた
○会社がおれ達にシフ寄せをすることがよくわかつた
○質問の時間がすくなかつた

◈質問

○期末手当は年内にもらえるか、カンパはどうなるか
○期末手当の分割払いは大丈夫か
○三鉱連の内部結束は十分だろうか。
○職員制度をどうして廃止できんのか
○石炭産業はなぜ賃金が安いのか
○事務手と非現業の待遇を何とかしてくれ
○機械化を認めることは組合が弱くなつたことではないか
○三鉱連はなぜ発電所の工事に関する契約を認めたか。下部にどうしてきかなかつたか、こんどはどうするのか
○不況と赤字の違いはどうか
○派閥に対してどう考えるか
などに集約された。

組合ではこの声を集約して検討したが、こんどの教宣について学ぶ点も多く、従来やつてきた教宣への反省資料もあたえられたといつている。

こんどは本部をまじえての交流情宣を積極的にすすめることがかんがえられている。

香典返し

故 藤末氏の遺家族

既報のように三鉱政治局員藤末克己氏（荒尾市教育委員長・三川支部）は去る十一月二十九日ついに死去されたが、亡くなられてはやくも二週間、その間家族の方は悲しみのなかから生活の再建に立上がられているが、ご主人の遺志により香典返しとして荒尾三中、緑ガ丘小学校、楓町地域分会、主婦会にそれぞれ多額の寄贈をされたこれを知つた関係者はじめ、地域ではいまさらながら、ありし日の藤末氏をしのび、香典返しに感激している。

拍手と興奮と闘魂

〃日本のうたごえから〃

〃日本のうたごえ〃に参加した三池の代表は、感激のうちにつぎのような手記を送つています。

× × ×

全国のうたごえの仲間たちは〃うたごえは闘いと共に〃のスローガンをかかげて、敵階級の絶ゆみない弾圧にめげず、労働者のよろこびとかなしみを、敵えの憎しみと憤りを歌にこめて、闘いつづけてきました。

多くの仲間たちが、闘いを通じて歌を通じて結びあつてきました

全国各地でおこなわれた産業別や地方別の「うたごえ」でだんだん盛り上つてきた〃うたごえ〃の波は、東京での「日本のうたごえ」で最高潮に達しました。

サークルの大小のちがいはあつても、肩をくみ固いスクラムをくんで平和の闘いを力強くすすめている、これらの青年男女の若い情熱は、大きくたくましく盛り上つています。

北は北海道、南は沖縄から参加した多くの仲間たちは、ここで固く結びあいました。働くものだけが味あうことができる感激にひたつています

この感動はふたたび地方に帰つてそれぞれの闘いの中に必ず拡大されていくはずです。

六日国鉄労働会館七階ホールでひらかれた創作発表会で、五日間にわたる祭典の幕がきられたのです。

会場は超満員。警職法改悪反対闘争、勤評反対闘争や、原水爆禁止の幅広い平和への闘いなど、闘いの中で創られた歌が発表されました。

人間としていたげられてきた苦しみを解放し、労働者として搾取のきづなをたち切ろうとする力が、つぎつぎと歌になり青高らかに合唱されていきました。

瞳に怒りをみなぎらせ、よろこびをうるおわせ、全身に闘う意慾をこめて合唱する若人は、職場でひたいに汗して働く労働者なのであいました。

この力強い〃うたごえ〃のひびきは、つねに前向きの姿勢で労働者の敵と闘う、前進譜をかなでる役割をになうのです。

七日の午前中は炭労会館で〃炭鉱のうたごえ〃をひらきました。

統一と団結の旗印の下に炭ぼる仲間たちが、地域のへだたりも忘れてともになごやかな雰囲気で歌いあいました。こうしたヤマのちがいをこえて、とけあう心が闘いを支える大きな力となるものだと確信をふかめました。

大音楽会は二万も収容するといわれる都立体育館で、超満員観衆のわれるような拍手と、どよめき

うたごえ代表歸組

十二月五日から東京でひらかれた〃日本のうたごえ〃には、三池からも十名の代表が参加していたが十二日午後一時半元気で帰組した